

## 第四主日 クリスマス礼拝

午前 10:30-11:30

(YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 ヨハネの福音書 1章 14節 (新約 175)

賛 美 荒野の果てに (教会福音 87・インマヌエル 412)

交 読 詩篇 134篇 1-3節 (旧約 1076)

主の祈り・使徒信条

特別さんび 雪よりも白く (インマヌエル 306)

プリンスクワイア

聖書朗読 ルカの福音書 2章 8-16節(新約 110)

牧者公祷

説 教 『地の上で平和が』

松井 元始 牧師

聖 餐 式 しみも咎も (教会福音 261・インマヌエル 393)

応答のとき

賛 美 天なる神には (教会福音 90・インマヌエル 403)

感謝祈禱

頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)

祝 祷

後奏・黙祷

\* \* \*

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉	〈奏楽〉	〈受付〉	〈聖書朗読〉	〈感謝祈禱〉
松井師	牧子師		司会者	

## インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: [immanuelojichurch@gmail.com](mailto:immanuelojichurch@gmail.com)

郵便振込: 記号 00180-8 番号 11785

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



## 『地の上で平和が』 (ルカの福音書 2章 8-16節) 2023.12.24.

<はじめに> これほど盛大にクリスマスを祝うのはなぜなのでしょう。歴史上の偉大な人物だから、イエス・キリストの誕生も祝うのでしょうか。それにしても別格の扱いです。時代を越え、世界中が祝うのですから。それだけの理由があることをぜひ知っていただきたいと願います。

## I クリスマスの事実

## ① 救い主の誕生(6-11)

ヒーローは大方成人として華々しく現れます。しかし救い主は嬰兒の姿で現れ、みすぼらしい飼葉桶に寝かされ、だれもそれに気づいていません。それを知らされたのは、ベツレヘムの野にいた羊飼いたちで、突然の御使いの出現と告知によったのです。

## ② 御使いの告知(10-12)

見知らぬ嬰兒があなたがたのために生まれた救い主だ、と言われても、ピンときません。しかし、救い主が与えられることは、神が古から約束され、預言者たちが繰り返し述べて来たことで、彼らユダヤ人も切望していました。この夜がその実現の喜びのときです。

## ③ 天の軍勢の賛美(13-14)

約束を果たされた神への賛歌と、それを受け取る地に住む人々への祝福を賛美します。「みこころにかなう人々に」とはどんな人なのでしょう。神から認められる立派な人、正しく完全無欠の人だとすれば、だれがそれにふさわしいのでしょうか。

## II It came upon the midnight clear (天なる神には・教会福音 90)

## ① 人類の現実の絵(原詩 2-4 節)

人類はより良く正しくあろうと願いつつも、現実には真逆へと落ち込み、そこから抜け出せず、苦しみ疲れ果て、それでもなお過ちと混乱を繰り返しています。だからこそ、いつの世も人は、この現実から救い出してくれる救い主の到来を切望しています。

## ② 天を突き破り(原詩 2-4 節、90 番 2-3 節)

神はきよく正しい方で、罪・過ちには厳しく向き合われます。ならば人が苦しむのは因果応報、自業自得です。しかし、神はあわれみに富んでいる御方でもあります。ですから、天を突き破り、神の側から悩み苦しむ人に救い主を送られると約束し、実行されました。

## ③ 御使いの歌を聞いて(原詩 5 節、90 番 4 節)

御使いは神の使者として、この救い主の誕生を普通の羊飼いに伝えます。彼らはこれを聞いて確かめに出掛け(16)、捜し当て(17)、話のとおりだと知って神を賛美します(20)。神の計画の実現は本当だ、と肯いて受け取り、賛美する人こそ、みこころにかなう人です。

<おわりに> 対等、当然が声高に叫ばれるこの人の世に、神はクリスマスに御子イエスを送り、天を押し曲げて救うあわれみを示されています。天の軍勢は挙って、人への神のあわれみに驚き、賛美しています。心を開いて神のあわれみを受け取る人にクリスマスは訪れます。(H.M.)

## 天なる神には (教会福音 90 番・インマヌエル 403 番)

1 「天なる神には 御栄えあれ 地に住む人には 安きあれ」と  
御使い挙りて ほむる歌は 静かに更け行く 夜に響けり

2 今なお御使い 翼を伸べ 疲れしこの世を 覆い守り  
悲しむ都に 悩む鄙に 慰め与うる 歌を歌う (鄙=田舎、ひなびた所、取るに足りない)

3 重荷を負いつつ 世の旅路を 悩める人々 頭を上げ  
栄えあるこの日を たたえ歌う 楽しき歌声 聞きて憩え

4 御使いの歌う 安き来たり 久しく聖徒の 待ちし国に  
主イエスを平和の君とあがめ あまねく世の民 高く歌わん